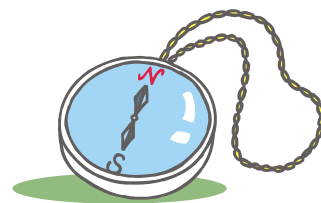


羅 針 盤



第 10 号 令和8年6月22日（月）

◆ 「時間を大切にする」

来週7月1日（水）に、生活委員会が主体となって「ノーチャイムデー」の取り組みが実施されます。時間というものは、誰にとっても全く平等に与えられているものです。生徒の皆さんだけに限ることなく、誰もが等しく二十四時間という一日を過ごしています。中学校での学校生活は三年間。この三年間は、限られた時間であり、この限られた時間をどのように使うべきかは、生徒の皆さん一人ひとりにゆだねられているものです。気がつけば、早くも6月の下旬となって、一学期の残された時間も、すでに一か月もありません。学校生活の基本は「授業」であることは、生徒の皆さんもよく承知していることであり、「時間を大切にする」ということは、如何にして限られた授業時間の中で、できるだけ多くのことを学び取り、集中力を発揮して、自らの持つ能力を高めていこうとすることができるのかといったことに、かかっているのではないのでしょうか。自らの能力を高める努力をし続けること、それは、ただ何気なく時間を過ごすのではなく、日々の充実した学校生活とともに、限られている時間の有効的な活用といったものに意識的に取り組む必要があるはずです。限られた時間を有効に活用するためには、優先順位を決めてから行動を起こし、身の回りの整理整頓を日頃から心掛け、生活リズムを習慣化しておくことが必要なことのはずです。また、ネガティブに考える時間を減らして、常にポジティブ思考で物事に取り掛かることが大事なことで、オンとオフを切り替えて行動することも大切なことであるはず。そして、何よりも時間を大切に使うことができる人は、相手のことも自分のことも大切にできる人のはずです。時間を守らないことや、無駄にすることが、時には大きな信用問題にもつながります。時間を大切にすることは、相手に対する思いやりともいえるでしょう。そういった、日ごろから「時間の使い方」についても意識をしながら、「時間を大切にできる人」としての成長を期待しています。

◆ 「一分の遅刻」という大罪

「一分の遅刻」と「一時間の遅刻」では、どちらの方が罪深いと生徒の皆さんは考えますか。「一時間の遅刻」の場合は、その原因として考えられるのは、その大半が交通事故や本人にとっては思いもよらなかった事態など、あらかじめ想定するのは難しかった状況に出会ってしまったことが原因となっていることが多いように思います。遅刻をしない方が良いことであることは、生徒の皆さんにもよくわかっていることでしょう。それでもやむ



にやまれぬ事情が起こるのも、日常の中では当然のことです。それよりも、一方、「一分の遅刻」の場合はどうでしょうか。本人のちょっとした気のゆるみが原因であって、努力次第では十分に時間に遅れるようなことがなかったということが考えられるはず。約束をして時間を決めていたなら、なおさらのことです。相手のことを軽く見ていた証拠と受け取られ、大きく「信用」を失ってしまうことにもつながります。相手のことよりも、自分の都合を優先したことで起こってしまうのが「一分の遅刻」と言えるのではないのでしょうか。「時間を守る」という意識を大切に、日々の学校生活を有意義に過ごしてもらいたいものです。